

様式第 1 号

会 議 録

会 議 の 名 称	平成 2 5 年度 第 3 回所沢市立所沢図書館協議会
開 催 日 時	平成 2 6 年 2 月 2 1 日 (金) 午後 2 時 0 0 分 ~ 午後 3 時 3 0 分
開 催 場 所	所沢市立所沢図書館 3 階集会室
出席者の氏名	高野 幸子、内野 正行、越阪部 芳加、風間 俊克、工藤 恭子、 及川 道之、村上 公子、柳沢 栄子
欠 席 者 の 氏 名	成田 桂子、清水 正
説明者の職・氏名	
協 議 事 項	(1) 第 2 次所沢市子どもの読書活動推進計画について ・パブリックコメントの結果について ・最終案について (2) その他 報告事項 (1) レファレンス事例の公開について (2) 第 14 回所沢図書館まつりの開催結果について (3) コンビニエンスストア図書等取次店舗について (4) 図書館文学講座「魅惑の古典文学」の開催結果について (5) その他
会 議 資 料	(1) 会議次第 (2) 第 2 次所沢市子どもの読書活動推進計画 (素案) に対するご意見と市の考え方について (2 枚差替え) (3) 第 2 次所沢市子どもの読書活動推進計画 (案) (4 枚差替え)
担 当 者 名	教育総務部長 平野 澄彦 教育総務部次長 斉藤 雅裕 図書館長 岸 企子 図書館副主幹 武藤 博 " 副主幹 奥村 稔 図書館主査 多辺田 幸子 " 主査 田中 和子 " 主査 中村 まさみ " 主任 田島 直子 " 主事 濱本 恵代 学校教育課指導主事 池之上 敦子 教育総務部 所沢図書館 電話 2 9 9 5 - 6 3 1 1

様式第 2 号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
岸館長	1 開 会 所沢市立所沢図書館平成 25 年度第 3 回図書館協議会を始めさせていただきます。 本日、開催のご案内を申し上げましたところ、成田委員、清水委員から「所用のため欠席」とのご連絡をいただいております。 2 あいさつ 平野教育総務部長より「この週末は 2 週連続で大変な大雪に見舞われ、所沢市でも 50 cm を超える積雪がございました。市内の学校では、特に大きな被害はございませんが、プールの日よけの鉄骨が曲がったり、校舎と校舎の間の連絡通路の屋根が落ちたり、倒木など小さな被害がございました。本日の協議事項である第 2 次所沢市子どもの読書活動推進計画につきましては、もう何度かご協議いただいておりますが、いよいよ大詰めを迎えまして、先日実施いたしましたパブリックコメントでは市民の方から 26 件ほどご意見をいただいたところでございます。いただいたご意見を合わせまして本日ご審議いただき、よりよい計画ができるよう皆様のお力添えをお願いしたいと存じます。」とあいさつがあった。 会議録署名人は、出席委員の中から工藤委員、村上委員とすることとし、記録方法については、要点筆記方式とすることを確認して協議に入った。 3 協議事項 （ 1 ）第 2 次所沢市子どもの読書活動推進計画について < 田中主査より、第 2 次所沢市子どもの読書活動推進計画に関するパブリックコメントの結果と素案について説明 >
委員	この計画は、おおむね 18 歳以下の子どもを対象としているが、内容を見ると、高校生向けの活動は小中学校向けの活動に比べて開きがあるように感じる。対象を 18 歳以下と限定するのに何かお考えがあるのか。
田中主査	国の計画を参考にした。
委員	高校との連携に関する記載は 2 ～ 3 ヶ所で、ほとんどが小中学校での取組についてだが、高校との連携は難しいのか。
田中主査	高校は県の機関ということもあり、これまで連携は少ない状況だったが、平成 21 年に計画を策定して、連絡会にも市内県立高校の代表にご参加いただき、交流を図っている。平成 24 年度から市内高校の司書の方との交流を夏季休業のときに行っている。その際に、不要になった本を寄贈していただけると聞き、リサイクル図書をいただいている。

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
委員	高校の司書の方との交流はとても事業計画にふさわしいと思えるが、計画の中に含めないのか。
田中主査	詳しくは記述していないが「ティーンズ向けサービスに関する情報交換」という項目に含めている。図書館でも、ティーンズ世代に勉強以外で来館してもらうことは、なかなか難しいと感じているので、高校の司書の方との情報交換は非常に有効だと思う。
委員	保健センターでも乳幼児向けのご案内など活発に行っているが、皮膚科や耳鼻科などの病院でも、待っている間に置いてある本で小さい声で読み聞かせをしている親子を目にすることがある。病院との連携として、赤ちゃんへの絵本を薦めるようなパンフレットやご案内などを設置して、保護者へ向けての啓発や絵本のご案内をしてはどうか。子どもの読書アンケートを見ても、家にある本を読んでいるという回答が多い。保護者へ「こんな本がある」と知らせる手法として、病院との関わりはどうなっているのか。
田中主査	保健センターを通じて、4ヶ月児健診、予防接種等の際はご案内を配布するようにしているが、今後は他の病院等で配布していただけるようであればお願いするなど、できるところから進めていきたい。
議長	「優良な図書の普及」として、子ども向けのよい図書を薦めるために、そういう場を活用することも一つの手段だと思う。
委員	九州のある県では、DVDなどを貸出すツタヤのような企業と連携を図り、若者の読書が活発化してきているという記事を新聞で読んだ。若者が集まる場所との連携を図ると、利用が増えていくのではないかと。
委員	若者はスマートフォンなどの電子機器で情報をやりとりしている。図書館でもそれらのメディアに対応するような設備や機能を充実させれば、子どもたちに、特にティーンエイジャーにはいいと思う。電子書籍等も含めて、そういった取組に関しても計画に盛り込んだらどうか。わざわざ来館しなくても、本の検索などができると、子どもたちが読書しやすい環境が整うのではないと思う。
田中主査	現在所沢図書館のホームページで蔵書の貸出状況等が確認できるようになっている。電子書籍については現在検討中であり、計画においては1ページに「電子書籍の扱いについて」という項目で記載している。

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
委員	電子図書など最先端でなくても、周辺の図書館が対応している範囲で、民間企業ともネットワークをつくれるような対応をすると思う。ティーンエイジャーを含めて若い人が読書に魅力を感じるような環境を整えれば、自然と読書量は増えていき、読書習慣もついてくると思う。
斉藤次長	今話に出ていたツタヤは、佐賀県武雄市の図書館の指定管理者として、レンタルや販売等の専門的なノウハウを取り入れながら図書館運営を行っている。これまで図書館になじみのなかった若者も、レンタルや本の購入と同時に図書館を利用するなど、相乗効果があって話題になっている。ティーンズ向けサービスは、計画に含まれていても確かに難しい。どうしても「読書はできるだけ小さいうちから」と小さい子向けの内容が濃くなるが、多方面から情報を得ながらティーンズ向けサービスについても工夫して進めていきたい。
議長	学校図書館の司書補助員の配置については、素案のときには将来的には全校配置というような内容だったが、今回の案だと適正な配置を目指すとしている。適正な配置とはどういう意味か、今後増やしていこうというのか、解釈の仕方も様々ある。新たな取組として【新規】と記載があるが、現実には全校でなくてもこれまで小中学校に司書補助員を配置してきたのだから、「成果が上がっている」と今までの成果を合わせて記載した方が、これから計画を進めていく上では良いと思う。
池之上指導主事	司書補助員は平成 23 年度から小学校へ配置しているが、成果として利用人数と利用冊数が増えたことも書き加えさせていただく。
議長	やはり全小学校へ配置していくという考えはあるのか。
池之上指導主事	小学校への司書補助員の配置は課題として認識しているが、長期的な計画が立てにくいいため、適正な配置を目指すとした。その適正な配置も含め今後の課題となっている。
議長	大規模校が何学級くらいか分からないが、例えば大規模が 30 学級だとすると、30 学級ある学校に通常週 4 日配置されるのであれば、15 学級ある学校 2 校に 2 日ずつ配置するなど、やり方は様々あると思うので工夫して進めていただきたい。どの学校も同じにしないでほしいということはないと思うので、少しずつでも工夫しながら配置を進めていった方が良いと思う。
委員	中学校については全校毎日補助員がいる。現在配置されている小学校の補助員も、導入時には中学校へ研修に来てバーコード化された貸出し

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
斉藤次長	の仕方など勉強していた。司書補助員の配置は、財政的に厳しい面もあるが効果はある。一斉に全校配置は難しいが、2校兼任等も一つのアイデアだと思う。 教育に対して市として力を入れていく中で、市の限られた予算内でどこを優先していくかが一番大きな課題になる。小学校の場合、これまで保護者などボランティアの方に司書補助員の業務を担っていただいております、特に小さなお子様は保護者がやってくださるのが一番効果的で、それで十分ではないかという教育委員会としての見解があった。一方、中学校では司書補助員配置の効果が出ていることもあり、大規模小学校2校へ配置し成果を検証することとなった。今後も可能であれば広げていくという方向性はあるが、読書の推進として人的支援以外にも所蔵図書の整備も含め、教育費を効果的に使う中で今後検討していければと思う。
議長	「蔵書管理体制の整備」の中で、蔵書管理の電子化について研究を進めるとあるが、現実にはすでに進めている学校もある。それぞれの学校の考え方でバラバラに進めて後でまとめるのは大変なので、何年かかけて研究するよりは、現に進行しているところである程度システムができあがっているのであれば、それを標準として広めていった方がいいのではないかと。一步踏み込んで方向性を示していかないと、現場の方は進めたくても進められないこともある。早めに結論を出して、現場が進めやすいようにしていく必要があると思う。
池之上指導主事	蔵書管理体制については、現在すでに電子化を進めている学校もあるので、その学校から情報を集め、経費をあまりかけずに進める方法の情報収集にあたっている。少しずつ進めていきたい。
議長	良いと思うやり方がそれぞれの学校でバラバラでは混乱するが、今進めているところを標準だと示してしまえば目標や方向性が見えて広めやすくそれほど支障はないと思う。図書の相互利用を考えても、統一されたシステムで整理した方が、別々の学校で同じ本をそろえるのではなく、違う本をそろえて冊数を増やさずに図書の種類を増やすことが出来るので、積極的に進めてほしい。 パブリックコメントで寄せられた「優良な図書の普及」に関する意見への回答の中で、上位計画である国の計画に合わせているという記述があるが、上位計画で決まっていると言うと、すべてそれに合わせて表記しなければならなくなるので、あえて書かなくてもいいのではないかと。
田中主査	ご指摘のとおり「上位計画である」という記述は削除する。

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
委員	計画案を見ると、人的な部分や施設整備など、子どもが本を気軽に手にとれるような計画を細かく策定していただき、大変ありがたい。市の予算もだいぶ削減されてきているが、それを学校間でどうカバーするか今後検討していきたい。
議長	本日出た意見で計画に盛り込めるものや修正が可能なところがあれば、それも含めて検討してほしい。計画は書いてあることをどう実行していくかが重要なので、書いてあることをさらに充実させて実行してほしい。案については、本日の意見を踏まえて策定委員会の方で検討して策定してほしい。
斉藤次長	所沢市では１次計画の策定時に子どもの読書活動推進連絡会を作った。連絡会では、市の関係部署の職員を中心に、実際にどう進めていくか検討する会議を年４～５回行っている。来年度から第２次の計画が進んでいくが、これまでできなかったことや市民からのご要望を含め、連絡会をさらに充実させていく形で計画を実行できるよう進めていかなければならないと感じた。今後、図書館や学校教育課が中心となって、関係部署と連携しながら進めていきたい。 （２）その他 事務局側、委員側ともになし ４ 報告事項 （１）レファレンス事例の公開について <多辺田主査より説明> （２）第１４回所沢図書館まつりの開催結果について <多辺田主査より説明> （３）コンビニエンスストア図書等取次店舗について <中村主査より説明> （４）図書館文学講座「魅惑の古典文学」の開催結果について <中村主査より説明> （５）その他
岸館長	次回の会議については平成２６年７月を予定している。 ５ 閉会のあいさつ 柳沢副会長のあいさつにより、午後３時３０分に会議は終了。